

1 学校教育目標
----------

創立以来133年にわたる歴史を有する本校の校是である「質実剛健」、「鍛身養志」のもと、生徒一人一人が教職員並びに生徒相互間に敬愛と信頼を中心とした好ましい人間関係を築き、「熱き心(若々しい情熱)」・「寛き心(思いやりの心)」・「毅き心(チャレンジ精神)」を醸成し、忠恕の心を忘れず己の可能性に挑戦することで、高い知性と広い視野を持ち、次代の日本・世界をリードする人材育成を目指す。

2 学校経営ビジョン
------------

県下第一の伝統と実績を誇る学校として、生徒・保護者・県民の期待に応え得る学校づくりを目指す。  
 学業面では全国レベルを視野におき、部活動でも県下の上位を目指すなど、学業と部活動の双方に優れた学校づくりを目指す。  
 豊かな人間性を構築するために、西高生としての品位と品格を涵養できる豊かな教育環境を持った学校づくりを目指す。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
------------	-------------

6万余の卒業生によって築かれた歴史と伝統を継承し「学力向上」・「豊かな人間性の構築」を第一義とし、忠恕の心を忘れず、己の可能性に挑戦する佐賀西高等学校生を育成するため、特に次の6点に力を入れる。

- ・更なる学力向上と高いレベルの進路保障を実現する
- ・教科指導力の向上を図り、授業の充実を目指す
- ・P D C Aサイクルにより自己向上力を育成する
- ・基本的生活習慣の更なる確立に向けた取組を実践する
- ・豊かな心を育むための学校行事を推進する
- ・メリハリのある文武両道の実践に取り組む

本年度の卒業生は、本校入学時に周りの環境が大きく変化した学年であり、今まで以上に危機感をもってこれまで教育活動を行ってきた。そのことは、受験結果にも表れた。  
 また、部活動においても、体育部文化部共に、本校の伝統的校風である文武両道を高いレベルで実践することができた。  
 本校の教育活動については保護者や生徒だけではなく県下の中学生にも広く広報することができ、志願者数、特に隣接学区からの志願者数の増加につながった。  
 さらに、昨年度の重点目標に対する本校の取り組みや熱意、意欲を肯定的に評価する保護者の方は87%に達し、ここにも広報活動の成果が見られる。  
 「より高き」に挑戦する気概を持ち心身共に健全たくましい生徒を育成するとともに、最終的には生徒に「来て良かった」、保護者に「預けて良かった」と思われる学校でありたいと考える。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	評価及びその理由
学校運営	学校経営方針	・本年度の重点目標を周知させることができたか。 ・本年度の重点目標への取組みを生徒・保護者が高く評価したか。	・重点目標を知っている保護者の割合を100%にする。 ・重点目標の取組について、「非常によい」、「よい」と思う生徒・保護者の割合を80%以上とする。	B ・保護者による学校評価アンケートには、約90%の保護者に回答いただいた。 ・重点目標の取組については、「非常によい」または「よい」と回答した保護者の割合が78%とあと一歩目標に届かなかったが、ほぼ目標は達成できたものと思われる。
	広報活動	・保護者への情報提供は十分にできたか。 ・中学生への情報提供は十分にできたか。	・学校の諸活動、諸行事についての情報を保護者に適切に伝える。 ・西高の魅力をより具体的に、中学生に伝える。	A ・体験入学はアンケート結果より、その趣旨が十分に達成できている。 ・ホームページの更新も定期的に行うことができた。 ・西高パンフレットも今年度、大幅な刷新ができた。
	学校事務	・学校管理運営費を教育水準を落とすことなく、節約できたか。	・学校運営費は前年並みの厳しい予算となっているが、その中で教育条件整備のより効果的な執行を目指す。	B ・光熱費を中心に、職員、生徒の協力を得て、無駄をなくし効率的な予算運営に努めた。 ・更新機器の使用単価を見直すことにより使用量の削減ができた。また、機器更新により機能性も向上し、使用環境も整った。
	職員の指導力向上	・難関大入試の教科特徴を把握し、それを活かすことができたか。 ・生徒が目指す大学に関する情報を把握できたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・難関大学への教科指導が的確にできるまで全職員の指導力を高める。 ・生徒が目指す各大学の入試システム及び入試問題に全職員が一定の知識を有するようになる。 ・生徒が充実感を味わえる授業を行う。	A ・校内模試および校内における入試問題研究が充実して来ており、それが、教科指導力の向上につながった。 ・授業満足度調査については、一・二学期とも90%以上の生徒が満足していると回答し、目標以上の達成ができた。「分かる授業」「質の高い授業」が実践されている結果であると判断できる。
学校運営	授業時数の確保	・授業時間を確保することにより、授業を充実(進度の確保)させることができたか。	・クラス間での教科・科目の授業時間数のばらつきを是正し、適正な授業の進度を確保する	A ・今年度は新型インフルエンザの影響で、学年閉鎖や学級閉鎖を余儀なくされたが、そんな中、授業時間確保に取り組み、すべての教科・科目において授業実施率80%以上を確保できた。 ・試験前に教科別授業時間過不足調査を行い、不足している教科の授業時間確保に努めることができた。
	学力向上	・出口を見据えた学力の向上が計れたか。	・国立大学の二次試験に対応できる学力を養成する。	A ・模試等の分析および授業進度の検討を繰り返し行い、より細やかな指導に向けて充実が図れた。
	進路指導	・生徒個々がより高き進路目標を掲げ、その実現のための大学進学を果たすことができたか。	・3年生、東大5名、九大50名、国立大医学部医学科10名の合格者を出す。 ・1・2年生、それぞれ東大40名九大160名の志望を確保する。	B ・東大を含め難関大学への合格者数はほぼ目標を達成できた。 ・東京大学、九州大学への志望者数は確実に増加している。

教育活動	家庭学習	・家庭学習時間を十分に確保できたか。 ・家庭学習時間に教科の偏りはなかったか。	・1日3時間以上の家庭学習を目指す。 ・不得意教科へ意識を持たせ、改善、得点率を着実に向上させる。	C	・家庭学習時間は、3年生を除くと目標値までは達していない。 ・学習意欲を高め、自主的に学習する態度の育成が必要である。
	心の教育	・基本的な生活習慣を身につけさせることができたか。 ・交通安全の意識を高めることができたか。 ・生命尊重の意識を高めることができたか。	・品位・礼節ある態度を身につけさせる。 ・自転車マナーの理解・徹底をさせる。 ・自他の生命を尊重し、いじめのない生き生きとした学校生活を実現する。	B	・品格・礼節ある態度については、挨拶は良くなってきているが、身だしなみ(服装・頭髪・応対)については、まだまだ身に付いていない。 ・交通指導においては、定期的に行ったもの他に随時行ってきたが、外部からのクレームも数件受けるなど、十分に浸透させることはできなかった。
	環境美化	・教室が学習環境として整備されているか。 ・ゴミの分別、減量化ができたか。	・各教室が常時整理整頓され、清掃の行き届いた状態にする。 ・環境美化に関する意識を高める。	B	・ゴミの分別の徹底については、年々良くなってきている。 ・美化週間の取組が徐々に浸透し、年度後半には掃除の徹底ができるようになった。
	読書指導	・生徒の読書活動や調べ学習の場としての機能を図書館が十分に果たしているか。 ・良書に親しみ、読書を通して思索を深めたり感性を豊かにしようとする態度を育成できたか。 ・朝の10分読書が充実したものになっているか。	・生徒一人当たりの年間平均貸出冊数を、2.0冊以上となることを目指す。 ・読書感想文コンクールの県審査において、計8名以上の入賞者を目指す。 ・全生徒が集中して読書できる環境をつくる。	A	・図書委員が選書する移動図書の実施や10分間読書時に図書委員が指導に当たるなどの取組により、貸し出し冊数も一人あたり3.1冊と増加し、目標を達成することができた。 ・読書感想文コンクールは県審査4名入賞で、目標までは届かなかったが、その他のコンクールにおいても多数の入賞を果たすことができた。 ・県の「読書チャレンジ運動」では、昨年度の奨励賞に続き、今年度は優秀賞を頂いた。
	健康・体づくり	・心身共に健康な生活が実現できるための指導、支援ができたか。 ・保健室利用者が教室に復帰できたか。	・生徒自ら心身の健康状態を把握するとともに、予防や食育についての指導を行う。 ・利用者数を減らすとともに早期に教室に戻れるように指導する。	A	・集団・個別の保健指導を「保健だより」と相乗して行った。今年度は特に新型インフルエンザの流行もあり、その予防策へ取組も十分に行うことができた。 ・健康に対する自己管理の意識を高めることにより、欠席や保健室来室者の減少が見られた。
特定課題	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・本人、保護者、担任と連携し、生徒の実情に合った指導ができたか。	・登校状況を、家庭から保健室へ、保健室から教室へ、と段階的に前進させる。	B	・スクールアドバイザー、担任、保健室の連携により、問題を抱えた生徒の早期発見や早期対応に努め、長欠者は減少している。

6 総合評価	<p>学年、進路を中心に、学力の動向を的確に把握し対応を行ってきた結果、今年度も、東京大学5名、京都大学3名、大阪大学3名、国立大医学部6名、九州大学37名合格という受験結果にも表れた。また、部活動においても、全国や九州大会に出場するなど、本校の伝統的校風である文武両道を高いレベルで実践した結果であるといえよう。</p> <p>このような本校の教育活動については、「ホームページ」や「学校だより」等で保護者や生徒だけでなく、県下の中学生にも広く広報することができた。さらに、今年度の重点目標についての本校の取り組みや熱意、意欲を、「非常によい」・「よい」と評価すると保護者の方は78%と昨年度に比べると少し下がってしまった。このことは、今後の課題である。</p> <p>より高きに挑戦する気概を持ち心身共に健全なたくましい生徒を育成するとともに、最終的には「来て良かった」「預けて良かった」と思われる学校でありたいと考えている。生徒、保護者のアンケートでは、「非常に良かった」・「よかった」と評価した生徒は74%、保護者は89%と高い値となっている。また、生徒の授業満足度調査では、「やや満足」と「満足」をあわせると90%以上を占め、昨年に引き続き非常に高い評価を受けていることは、生徒が望む「分かる授業」、「質の高い授業」が実践されている結果と判断できる。</p>
--------	--

7 来年度の改善策	<p>(1) 本校は、次年度も第一の重点目標である学力向上と、それに伴う進路保障に最大のエネルギーをかける。そのため次のような方向性をもって今後さらに創意工夫を重ねていく方針である。</p> <p>志望校別クラス編成を最大限に生かすため、学年指導、担任指導、教科指導のあり方をそれぞれ再点検し、より効果を高めるためにはどうしたらよいか、生徒の意欲をより高めるためにはどうしたらよいかという観点から一層の共通理解を図って行く。また、本校の進学実績や取り組みを今後も幅広く広報して、魅力のある学校として目的意識の高い生徒の入学にも力を入れていきたいと考える。</p> <p>(2) 本校生は、将来いろいろな分野でリーダーとして活躍することが期待される。そういう人材を育成するために勉強だけに偏らない幅広くまた骨太の人格形成を目指している。そのための方策として部活動の奨励はもちろんのこと、生活指導、読書指導、保健指導、環境美化指導等、以下の点にも力を入れていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P D C A サイクルによる自己向上力を育成する。</li> <li>・文武両道を推進するために、メリハリのある学校運営を行い、下校時間を遵守し、家庭学習時間を確保させる。</li> <li>・自他の生命尊重教育も視野に入れ、交通マナーの向上指導を含め、保護者との協力態勢を構築していくことを目指す。</li> <li>・食育の面からの指導も図り、日常の体調管理、規則的生活習慣の定着、部活動の休養日設定なども考慮し、遅刻・欠席の数を減らす。</li> <li>・生徒の環境美化に対する意識を高めながら、ゴミの分別指導、節水節電の指導なども検討して、校内の隅々の美化と環境教育の徹底を目指す。</li> <li>・各種行事の精査と精選を行い、授業時間の確保に努める。</li> </ul>
-----------	---